

厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)  
分担研究報告書

人口過少かつ医療資源が乏しい地域の小児医療提供体制に関する研究

研究分担者 渡部誠一 総合病院土浦協同病院

【要旨】

医療資源が乏しい地域の病院小児科について、地域振興小児科の設定と、医療圏広域化、IT化によるネットワーク、等は有用である。

A．研究目的

医療資源が乏しい地域の小児医療提供体制構築について検討し、地域振興小児科の機能と支援策を考察する。

B．研究方法

地域振興小児科のモデル例を収集し、機能と支援策を考察する。2012年に開始した地域振興小児科の検討、2014年に実施した地域振興小児科推薦事業、その解析結果をまとめる。2015年に報告した、中核病院小児科、地域小児科センター、地域振興小児科リストについて、全国から、確認等の連絡があり、その都度対応した。小児医療圏の広域化について、疑義があり広域化の必要性と根拠を考察した。茨城県内の小児医療提供体制の構築において、医療資源が乏しい、日立地区の2病院小児科、取手龍ヶ崎地区と鹿行地区間で病院小児科の集約化、茨城県内小児・周産期のネットワーク構築を行なった。

(倫理面への配慮)

個人情報等の保護には十分に配慮した。

C．研究結果

病院リストについての問合せに適宜対応した。二次医療圏を分析して、多様性を見出し、医療圏のサイズに応じた体制整備と、広域化によって、少ない医療資源でも、安定した小児医療提供が可能になることを示した。2病院間で小児科医の集約化と出務方式を組み合わせ、地域小児医療を継続した。ITを用いて、茨城県内の22病院、19小児科、14産婦人科、6周産期母子医療センター、3小児外科のネットワークを構築した。現在、地域振興小児科推薦事業、機能と支援策についてまとめている。

E．結論

医療資源が乏しい地域における、小児医療提供体制の構築は、地域特性、地域ネットワークを重視して、細かな対応が必要である。地域振興小児科、医療圏広域化、IT化によるネットワークは、有用と考える。

F．健康危険情報

該当なし

G . 研究発表

1. 論文発表

渡部誠一.茨城県小児周産期医療ネットワークの構築.茨厚病会誌;29:24-28,2016.

2. 学会発表

地域振興小児科の推薦事業、第 119 回

日本小児科学会.2016.05.15

保護者の小児救急医療利用行動、同上県全体の

ネットワーク構築で小児科医・婦人科医を育成する。第 66 回日本病院学会、2016.06.24  
シンポジウム、医療資源が乏しい地域の病院小児科、2016.10.16.

H .知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得

2. 実用新案登録

3.その他